

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

果菜類の栽培管理

今回は果菜類の栽培で起こる問題を説明します。

果菜類の特徴

キュウリ、トマト、ナスといった果菜類は、親づるや主枝などの茎や枝が伸び、そこに実を付ける野菜です。

「実」を健全に育てるためには、茎や枝などの「樹」と呼ばれる部分の役割が大切です。「樹」が健康に成長していないと「実」は育ちません。

体を健康に保ちましょう

人は、予期せず病気になることがあります。けがをしたりすることがあります。野菜も同じで病気になることや、強風で枝が折れたり傷付くことがあります。

野菜は人と違って、動くことや話すことができないので、野菜を管理する人が気付いて、薬を使って回復させてあげることが大切です。特に、初期段階での発見が大事になるので、毎日よく見てあげましょう。

適正な栄養が取れているか

野菜が健康に過ごすためには、良い肥料をバランスよくまくことが大切です。

肥料が多すぎると、果菜類は茎葉が過繁茂となり、花・果実の成長が抑えられます。

少ない場合は、野菜は栄養失調を起こして、最悪の場合、倒れてしまいます。

肥料は適正な量を守ってまきまきましょう。

※過繁茂・茎葉が過剰に茂ること、風通りや日当たりが悪くなること。

実がなり過ぎていないか

果菜類は、天気や生育環境などが原因で、実が想定以上に多くなる場合があります。

実を付けることは、「樹」にとつて大きな負担を伴います。

そういったときには、実が小さいうちに摘果するなどして負担を減らすか、肥料をあげて栄養を付けさせ「樹」を守ってあげましょう。

野菜は、愛情を持って育ててあげれば、良いものが作れます。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
0824・73・1131

庄原が好き



口和町での暮らしを楽しんでいる
河野 邦子さん

大阪府から口和町に移住し、保育所で、絵本の読み聞かせなどの活動をしている河野さんに、話を聞きました。

口和町で暮らす

退職した夫の故郷口和町に帰ることになったのが、今から17年前。当時は、大阪での便利な生活に慣れていたので、田舎暮らしはとても不安でした。

そんなとき、大阪で絵画鑑賞をしていると、ふと木と小川の風景画に心引かれていた自分に気付きました。「私は田舎で暮らす運命なんだ！」と確信しました。それが移住を決めたきっかけです。

口和に住んで初めての秋は、山々の紅葉に感動しました。

その気持ちを近所の人に伝えたところ「上ばかり見んこう下の方も見てみんさい」と言われ、足元を見てみると、道端にはたくさんのお栗が落ちてお

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。

り、さらに感動しました。以来、足元の自然も見逃さないようにしています。

子どもたちとの関わり

大阪では学童保育の支援員など、子どもに関わる活動をしていたので、庄原市へ移住してからも、保育所を訪問し、絵本の読み聞かせやエプロンシアターなどを行っています。大きくなった子どもたちが私のことを覚えていて、「あつ！河野さんだ！」と町で話しかけてくれるのが何より幸せです。

口和町での暮らしが一冊の本に

私は、大阪府堺市にある障害者作業所「くるみの樹」の通信に、口和町の暮らしについて、コラムを連載していました。3年前には施設側の厚意で、コラムを一冊の本にしてもらい、とても感動しました。



口和町での暮らしは、大変なことも多いですが、それ以上に楽しいことも多くあり、毎日が充実しています。

問い合わせ

自治定住課定住推進係
0824・73・1257